

SONY®

サウンドバー

取扱説明書

本機を設置する

テレビやAV機器とつなぐ

音楽／音声を聞く

音質を調整する

HDMI機器制御機能を使う

設定を変更する

困ったときは

その他



HT-G700



安全のために

(→ 62 ページ～67 ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

62～67 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。68 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においが
したら、
煙が出たら



- 1 電源を切る
- 2 電源プラグをコンセントから抜く
- 3 お買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理を依頼する

警告表示の意味

本取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書とスタートガイド（別紙）をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

この取扱説明書の見かた	4
箱の中身を確認する	5
本機でできること	6
各部の名称とはたらき	7

本機を設置する

バススピーカーとサブウーファーを 設置する	→	スタートガイド (別紙)をご覧ください。
バススピーカーを壁に取り付ける	12	
サブウーファーをつなぐ	14	
テレビのリモコンが効かない ときは	15	

テレビやAV機器とつなぐ

テレビやAV機器と HDMIケーブルで つなぐ	→	スタートガイド (別紙)をご覧ください。
ソニー製のBLUETOOTH機能搭載テレビとワイヤレスでつなぐ	17	
4Kテレビと4K対応機器をつなぐ	20	

音楽／音声を聞く

テレビや他機器の音声を聞く	23
音量を調節する	24

2か国語放送の音声を切り換える (音声切換)	24
BLUETOOTH®機能で音楽／音声を 聞く	25

音質を調整する

上から包まれる臨場感を体験する (IMMERSIVE AE)	28
音源に合わせたサウンド効果に設定 する (サウンドモード)	29
セリフを聞きやすくする (ボイス)	30
深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウ ンドで楽しむ (ナイトモード)	31
音質設定を確認する (画面表示)	31

HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能を使う	32
"ブラビアリンク"を使う	34

設定を変更する

設定メニューを使う	35
表示窓とランプの明るさを調整する (本体表示)	40
スタンバイ時の待機電力を おさえる	41

困ったときは

困ったときは	42
初期化する	50

その他

主な仕様	51
入力できる音声フォーマット	53
入力できる映像フォーマット	54
BLUETOOTH無線技術について	56
ソフトウェア使用許諾契約書	58
安全のために	62
使用上のご注意	68
保証書とアフターサービス	70
索引	72

この取扱説明書の 見かた

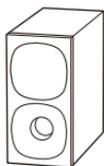
- 本書では操作の説明はリモコンを使っています。
- イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- 各機能の説明では、お買い上げ時の設定に下線を付けています。
- [-] カッコの中に書かれている文字は表示窓に表示されます。

箱の中身を確認する

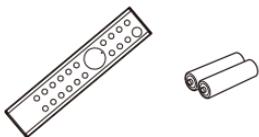
- バースピーカー (1)



- サブウーファー (1)



- リモコン (1) /
単4形マンガン乾電池 (2)



- HDMIケーブル (プレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応) 同等) (1)



- 電源コード (2)



- 壁掛けテンプレート (1)



- スタートガイド

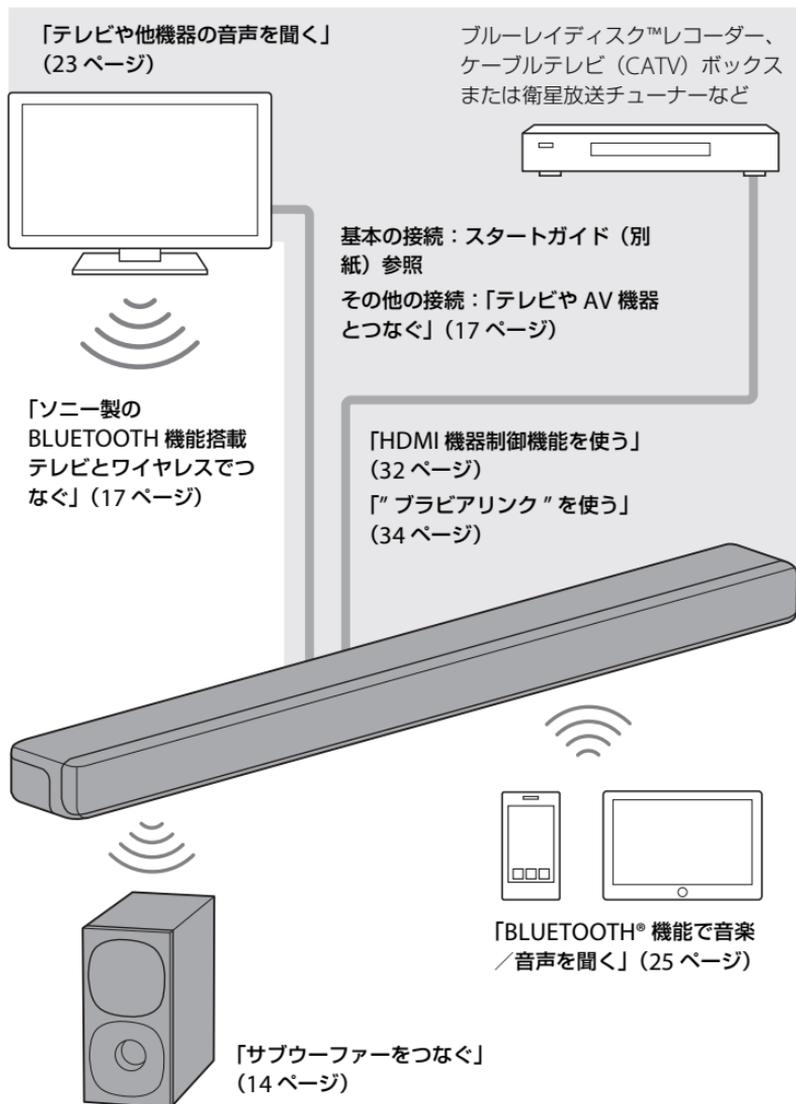


- 取扱説明書 (本書)



本機でできること

本機はDolby Atmos、DTS:Xなどのオブジェクトオーディオフォーマット、HDR10、HLG、Dolby VisionなどのHDR映像フォーマットに対応しています。

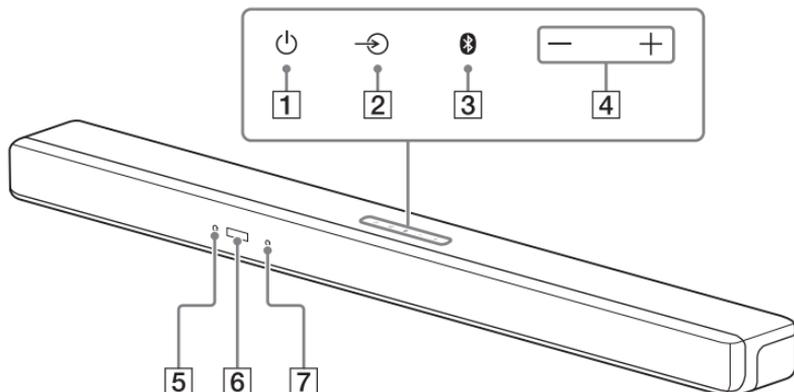


各部の名称とはたらき

本書のイラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。

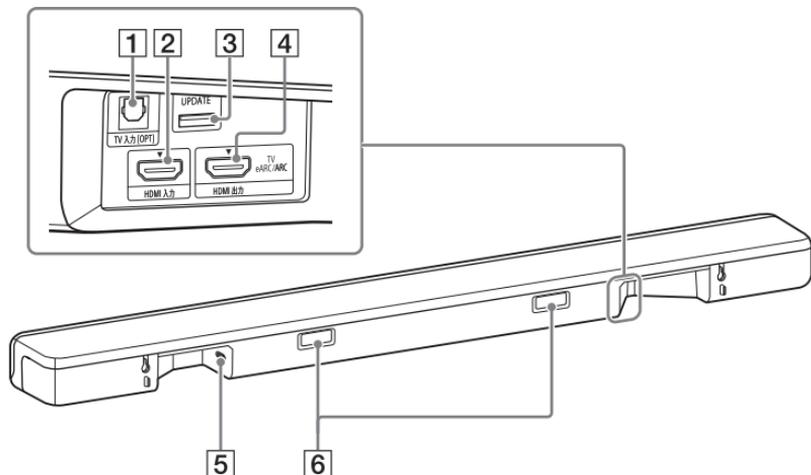
バースピーカー

正面



- 1** 電源 ボタン
本機の電源を入れます。
本機の電源が入っているときに押すと、本機をスタンバイ状態にします。
- 2** 入力切換 ボタン
本機で再生する入力を選びます。
- 3** BLUETOOTHボタン (25ページ)
25ページ参照
- 4** + / - (音量) ボタン
音量を調整します。
- 5** BLUETOOTHランプ
 - 青色で点灯：BLUETOOTH機器とBLUETOOTH接続されています。
 - 青色でゆっくり点滅：BLUETOOTH接続待ち状態です。
 - 青色で2回ずつ点滅：BLUETOOTH機器登録（ペアリング）待ち状態です。
- 6** 表示窓
表示窓
- 7** リモコン受光部
リモコンをバースピーカーの受光部に向けて操作してください。

背面

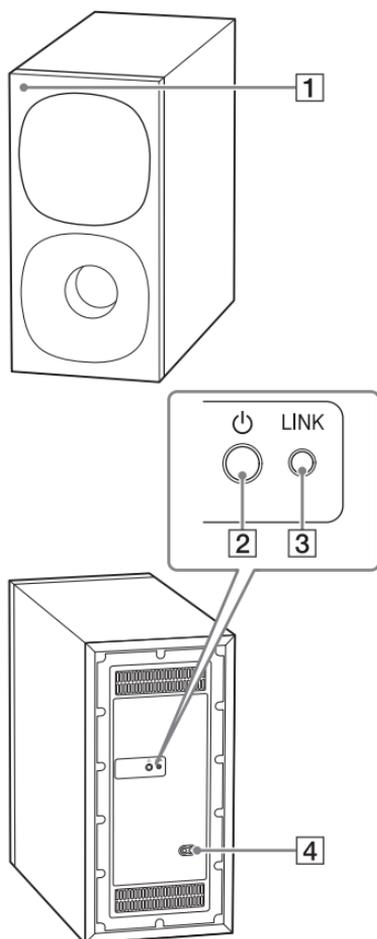


- 1 TV入力 (OPT) (テレビ入力 (光デジタル)) 端子**
- 2 HDMI入力 端子**
仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(54ページ)をご覧ください。
- 3 UPDATE (アップデート) 端子 (39ページ)**
本機をアップデートするとき、USBメモリーをつなぎます。
- 4 HDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子**
HDMI入力端子のあるテレビをHDMIケーブルでつなぎます。本機はeARCおよびARCに対応しています。ARCとはHDMIケーブルを通して、テレビの音声をテレビのHDMI端子から本機などのAV機器に送る

機能です。eARCはこのARCを拡張したもので、ARCでは伝送できなかったオブジェクトオーディオやマルチチャンネルLPCMの伝送が可能になります。eARC機能については「[[EARC]]」(37ページ)、対応している音声フォーマットについては「入力できる音声フォーマット」(53ページ)、仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(54ページ)をご覧ください。

- 5 AC入力端子**
- 6 IRリピーター (15ページ)**
バースピーカーが受けたテレビのリモコン信号をテレビに転送します。

サブウーファー



1 電源ランプ

- 緑色で点灯：本機と接続されています。
- 赤色で点灯：スタンバイ状態です。
- アンバー色で点灯：手動接続で本機と接続されています。
- 緑色でゆっくり点滅：本機との接続待ち状態です。
- アンバー色でゆっくり点滅：本機との手動接続待ち状態です。
／ソフトウェアアップデート中です。
- アンバー色で速く点滅：手動接続でペアリング待ち状態です。
- 消灯：電源オフ状態です。

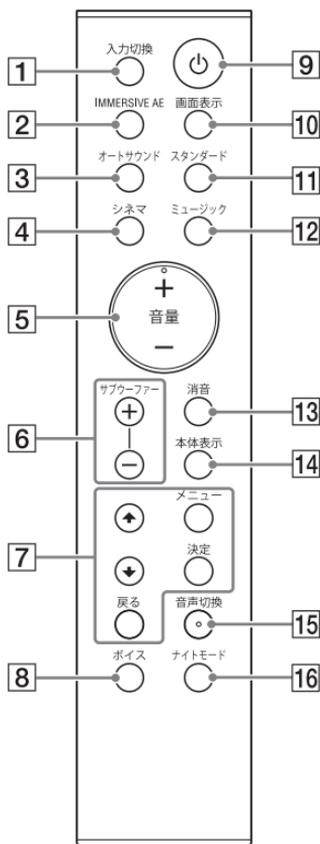
2 電源 ボタン

サブウーファーの電源を入れます。サブウーファーの電源が入っているときに押すと、オフにします。

3 LINK (リンク) ボタン (14 ページ)

4 AC入力端子

リモコン



- 1 入力切換ボタン (23ページ)**
再生する入力を選びます。
ボタンを押すたびに、表示窓に選んだ入力が以下のように表示されます。
[TV] → [HDMI] → [BT]
- 2 IMMERSIVE AE (Immersive Audio Enhancement) ボタン (28ページ)**
Immersive Audio Enhancement 機能のオン/オフを設定します。
- 3 オートサウンドボタン (29ページ)**
- 4 シネマボタン (29ページ)**
- 5 音量+*/-ボタン (24ページ)**
音量を調節します。
- 6 サブウーファー+/-ボタン (24ページ)**
サブウーファーの音量を調節します。
- 7 メニューボタン (35ページ)**
設定メニューモードに入ります。
もう一度押すと設定メニューモードを終了します。
▲/▼ボタン (35ページ)
設定メニュー項目を選びます。
決定ボタン (35ページ)
選択を決定します。
戻るボタン (35ページ)
一つ前の画面に戻ります。

⑧ ボイスボタン (30ページ)

⑨ 〇 (電源) ボタン

本機の電源を入れます。

本機の電源が入っているときに押すと、本機をスタンバイ状態にします。

⑩ 画面表示ボタン (31ページ)

サウンドモード、IMMERSIVE AE、ボイスモード、ナイトモードの設定や、ストリーム情報を確認できます。

⑪ スタンダードボタン (29ページ)

⑫ ミュージックボタン (29ページ)

⑬ 消音ボタン

音を一時的に消します。

⑭ 本体表示ボタン (40ページ)

⑮ 音声切換ボタン* (24ページ)

⑯ ナイトモードボタン (31ページ)

* 音声切換ボタン、音量+ボタンには、凸点 (突起) が付いています。操作の目印として、お使いください。

電池交換について

リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り換えてください。

電池は単4形マンガン乾電池をお使いください。

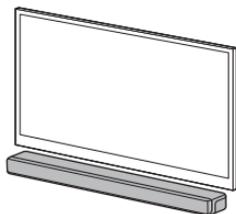
本機を設置する

バースピーカーとサブウーファーを設置する

スタートガイド（別紙）をご覧ください。

バースピーカーを壁に取り付ける

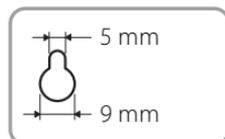
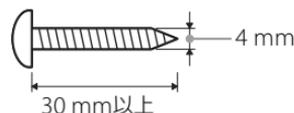
次の手順でバースピーカーを壁に取り付けることができます。



ご注意

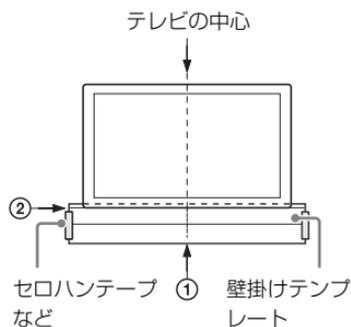
- 壁の材質や強度に合わせた市販のネジをご用意ください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。バースピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、ソニーは一切責任を負いません。

- 1 バースピーカー背面の穴に合う市販のネジを2本用意する。



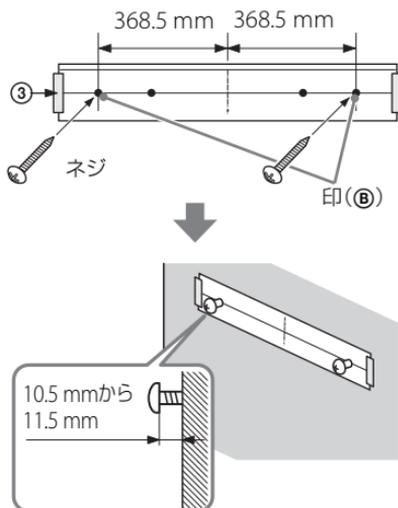
バースピーカー背面の穴

- 2 壁掛けテンプレート（付属）を壁に貼る。



- 1 壁掛けしたテレビの中心に壁掛けテンプレートのTVセンターライン (①) を合わせる。
- 2 壁掛けテンプレートのTV下端ライン (②) をテレビの下端に合わせ、壁掛けテンプレートを市販のセロハンテープなどで貼る。

3 下図のように壁掛けテンプレートのネジ取付ライン (㉓) 上の印 (㉔) にネジをとめる。



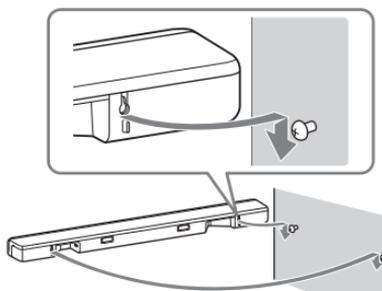
ご注意

- 壁掛けテンプレートはしっかり伸ばして貼ってください。
- テレビとベーススピーカーの距離を70 mm以上離して設置してください。

4 壁掛けテンプレートを取りはずす。

5 バースピーカー背面の穴をネジにかける。

ベーススピーカー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2か所同時に取り付けてください。



サブウーファーをつなぐ

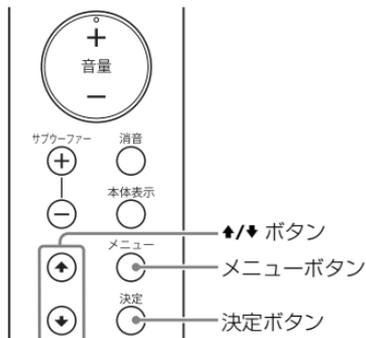
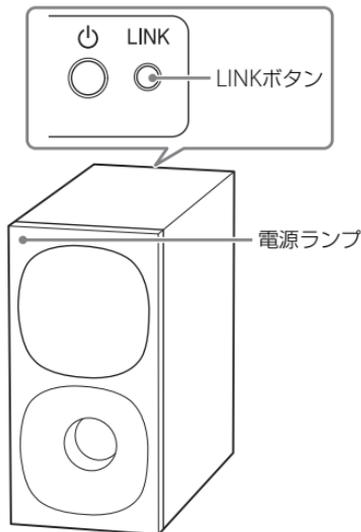
サブウーファーを自動でつなぐ

サブウーファーは、電源を入れると自動的に本機とつながります。

サブウーファーの接続についてはスタートガイド（別紙）をご覧ください。

サブウーファーを手動でつなぐ

サブウーファーが自動でつながらないとき、または複数のワイヤレスサウンド機器を使用しているときに特定のサブウーファーとつなぎたいときは、手動で本機とつなぎます。



- 1** **メニューボタンを押す。**
表示窓に [SPEAKER] が表示されます。
- 2** **↑/▼ボタンを押して [SPEAKER] を選び、決定ボタンを押す。**
- 3** **↑/▼ボタンを押して [LINK] を選び、決定ボタンを押す。**
- 4** **↑/▼ボタンを押して [START] を選び、決定ボタンを押す。**
表示窓に [LINK] が点滅します。手動接続を中止する場合は、戻るボタンを押します。
- 5** **サブウーファーのLINKボタンを押す。**
手動リンクを開始します。サブウーファーの電源ランプがアンバー色で点滅します。

6 表示窓に [DONE] が表示されたら、メニューボタンを押す。

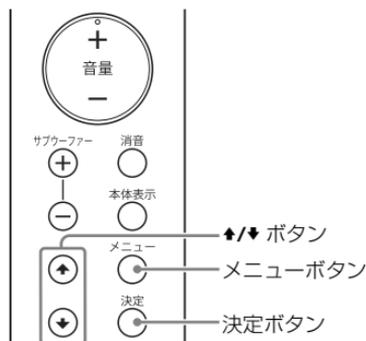
リンクが完了し、サブウーファアの電源ランプがアンバー色で点灯します。

ご注意

表示窓に [ERROR] が表示された場合は、サブウーファアは本機とつながれていません。手動接続を再度行ってください。

テレビのリモコンが効かないときは

バースピーカーがテレビのリモコン受光部を隠してしまい、テレビのリモコンでテレビを操作できなくなる場合があります。このようなときは本機のIRリピーター機能を有効にしてください。バースピーカーが受けたテレビのリモコン信号がテレビに転送され、リモコン操作が可能になります。



1 メニューボタンを押す。

表示窓に [SPEAKER] が表示されます。

2 ◀/▶ボタンを押して [SYSTEM] を選び、決定ボタンを押す。

3 ◀/▶ボタンを押して [IR REPEATER] を選び、決定ボタンを押す。

4 [ON] を選ぶ。

ご注意

- テレビのリモコンでテレビを操作できないことを確認してから、[IR REPEATER] を [ON] にしてください。操作できるときに [ON] にすると、テレビのリモコンからの直接の信号とバースピーカーで中継した信号が干渉しあい、正しく動作しないことがあります。
- [IR REPEATER] を [ON] にした場合でも、テレビによっては本機能が動作しなかったり、エアコンなど他の機器のリモコンが正しく動作しなくなったりすることがあります。その場合はバースピーカーやテレビの設置位置を変えてみてください。

テレビやAV機器 とHDMIケーブル でつなぐ

4Kテレビや4K対応機器をつなぐときは

「4Kテレビと4K対応機器をつなぐ」
(20ページ) をご覧ください。

eARC対応テレビをつなぐときは
接続方法はスタートガイド(別紙)、
設定については「[EARC]」(37ページ)
をご覧ください。

上記以外のテレビとHDMIケーブルで
つなぐときは、スタートガイド(別
紙)をご覧ください。

ソニー製の BLUETOOTH機能 搭載テレビとワ イヤレスでつなぐ

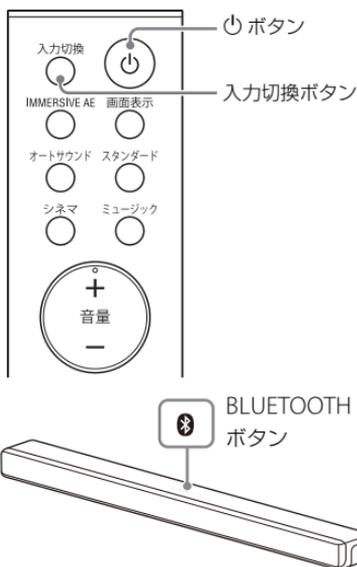
ソニー製のBLUETOOTH機能搭載テレビ*をお使いの場合、テレビと本機をBLUETOOTH機能でつないで、テレビやテレビにつないだ機器の音声をワイヤレスで聞くことができます。

* A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) に対応している必要があります。

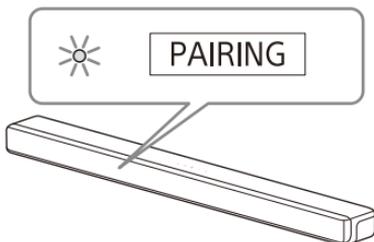


テレビとワイヤレスでつなぐ

本機とテレビをワイヤレスでつなぐには、BLUETOOTH機能を使ってテレビと本機を機器登録(ペアリング)する必要があります。ペアリングとは、BLUETOOTH機器同士を互いにあらかじめ登録することです。



- 1 テレビの電源を入れる。
- 2 本機の電源を入れる。
- 3 バースピーカーのBLUETOOTHボタンとリモコンの入力切替ボタンを同時に5秒間長押しする。
本機がペアリングモードになり、表示窓に [PAIRING] が表示され、BLUETOOTHランプが2回ずつ点滅します。



4 テレビで機器登録（ペアリング）操作をして、本機を検索する。

テレビの画面に検出したBLUETOOTH機器の一覧が表示されます。テレビにBLUETOOTH機器を機器登録（ペアリング）する操作方法は、テレビの取扱説明書をご覧ください。

5 テレビの画面に表示された機器の一覧から「HT-G700」を選び、互いの機器を登録する。

6 バースピーカーのBLUETOOTHランプが青色で点灯し、表示窓に [TV-BT] が表示されていることを確認する。

本機とテレビとの接続が完了しました。

7 テレビのリモコンで好みの番組、またはテレビにつないだ機器の入力を選ぶ。

本機からテレビに表示している画面の音声が出力されます。

8 テレビのリモコンで本機の音量を調節する。

テレビのリモコンの消音ボタンを押すと、本機の音を一時的に消すことができます。

ご注意

- 本機からテレビの音声がでないときは、本機のリモコンの入力切換ボタンを繰り返し押し、TV入力を選び、本機の表示窓とランプの状態を確認してください。
 - 表示窓に [TV-BT] が表示されているとき：本機とテレビの接続が完了し、テレビの音声が本機から出力されます。
 - BLUETOOTHランプが2回ずつ点滅し、表示窓に [PAIRING] が表示されているとき：テレビ側でペアリングを行ってください。
 - 表示窓に [TV] が表示されているとき：ペアリングの手順を最初からやり直してください。
- 本機とテレビをHDMIケーブル（付属）でつなぐと、BLUETOOTH接続が解除されます。本機とテレビをBLUETOOTH機能でつなぎなおすには、HDMIケーブルを抜いてからペアリングの手順を最初からやりなおしてください。
- 本機とテレビをBLUETOOTH機能でつなぎ、サウンドモードで [AUTO SOUND] を選ぶと、サウンドモードは [STANDARD] が選ばれます。

テレビの音声を聞く

テレビとワイヤレスでつなぐと、テレビのリモコン操作でも本機の電源入/切、音量調節、消音の操作ができます。

1 テレビのリモコンでテレビの電源を入れる。

テレビの電源に連動して本機の電源が入り、本機からテレビの音声が出力されます。

2 テレビのリモコンでお好みの番組、またはテレビにつないだ機器の入力を選ぶ。

本機からテレビに表示している画面の音声が出力されます。

3 テレビのリモコンで音量を調節する。

テレビのリモコンの消音ボタンを押すと、本機の音を一時的に消すことができます。

ご注意

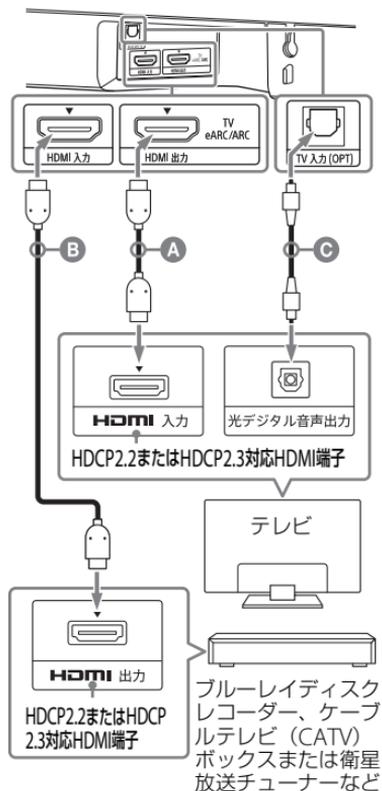
本機のリモコンでテレビ入力以外の入力を選ぶと本機からテレビの音声が出力されません。本機からテレビの音声を出力するには、入力切換ボタンでテレビ入力を選んでください。

ちょっと一言

テレビの電源を切ると、テレビの電源に連動して本機の電源も切れます。

4Kテレビと4K対応機器をつなぐ

本機のHDMI端子はすべて4K映像フォーマットや HDCP2.2および HDCP2.3に対応しています。著作権保護された4K映像コンテンツを見る場合は、それぞれの機器のHDCP2.2またはHDCP2.3対応HDMI端子をつなぎます。著作権保護された4K映像コンテンツはHDCP2.2またはHDCP2.3対応のHDMI端子につながらないと視聴できません。



Ⓐ HDMIケーブル (付属)

Ⓑ HDMIケーブル (別売)

4K映像フォーマット対応のHDMIケーブルを使用してください。詳しくは「入力できる映像フォーマット」(54ページ)をご覧ください。

Ⓒ 光デジタル音声ケーブル (別売)

1 お使いのテレビで、どのHDMI入力端子がHDCP2.2またはHDCP2.3に対応しているかを確認する。テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 テレビのHDCP2.2またはHDCP2.3対応HDMI入力端子と本機のHDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子をHDMIケーブル (付属) でつなぐ。

テレビのHDCP2.2またはHDCP2.3対応HDMI入力端子がeARCまたはARCに対応している場合、テレビとの接続は完了です。手順4に進んでください。

3 テレビのHDCP2.2またはHDCP2.3対応HDMI入力端子がeARCまたはARCに対応していない場合、テレビの光デジタル音声出力端子と本機のTV入力 (OPT) 端子を光デジタル音声ケーブル (別売) でつなぐ。

テレビと本機をHDMIケーブルのみでつないでいる場合、テレビの

音声は出力されません。光デジタル音声ケーブル（別売）もつないでください。テレビとの接続は完了です。

4 4K対応機器のHDMI出力端子（HDCP2.2またはHDCP2.3対応）と本機のHDMI入力端子をHDMIケーブル（別売）でつなぐ。

お使いの4K対応機器のHDMI出力端子がHDCP2.2またはHDCP2.3に対応しているかは、機器の取扱説明書をご覧ください。

4K対応機器との接続は完了です。

5 テレビの電源を入れる。

6 本機の電源を入れる。

ちょっと一言

HDCP2.2またはHDCP2.3対応の機器であれば、HDCP2.2対応のテレビとHDCP2.3対応の4K機器などHDCPのバージョンが異なっても視聴可能です。

4K映像コンテンツを見るための設定をする

4K映像コンテンツを見るために、つないだ4Kテレビや4K対応機器に合わせた設定を行います。

- 1 **メニューボタンを押す。**
表示窓に [SPEAKER] が表示されます。
- 2 **↑/↓ボタンを押して [HDMI] を選び、決定ボタンを押す。**
- 3 **↑/↓ボタンを押して [FORMAT] を選び、決定ボタンを押す。**
- 4 **↑/↓ボタンを繰り返し押し続けてお好みの設定を選ぶ。**
 - [ENHANCED] : 本機につないだ機器とテレビが4K 60p 4:4:4などの高精細なフォーマット信号をサポートしているとき、この設定を選びます。
 - [STANDARD] : 本機につないだ機器とテレビが標準的なフォーマット信号をサポートしているとき、この設定を選びます。

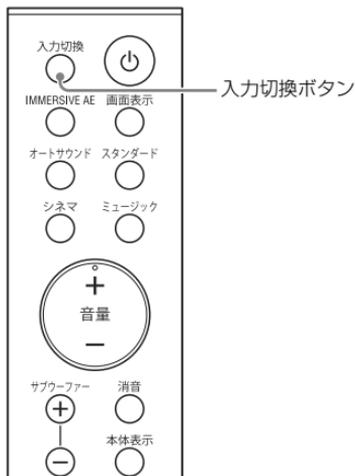
本設定と、対応映像フォーマット信号、使用できるHDMIケーブルについて詳しくは「入力できる映像フォーマット」（54ページ）をご覧ください。

ご注意

- ご使用のテレビによっては、テレビ側のHDMI出力設定変更が必要になる場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- [ENHANCED] を選んでいるときに画面が表示されない場合は、[STANDARD] に設定してください。

テレビや他機器の音声を聞く

本機につないだ機器の入力を選んで、機器の音声を再生します。



1 入力切換ボタンを押して好みの入力を選ぶ。

ボタンを押すたびに、選んだ入力が表示窓に以下のように表示されます。

[TV] → [HDMI] → [BT]

[TV]

本機のTV入力 (OPT) 端子または HDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子につないだ音声を選びます。設定メニューの [HDMI] - [TV AUDIO] で再生する入力を設定できます (37ページ)。

[HDMI]

本機のHDMI入力端子につないだ機器の音声を選びます。

[BT]

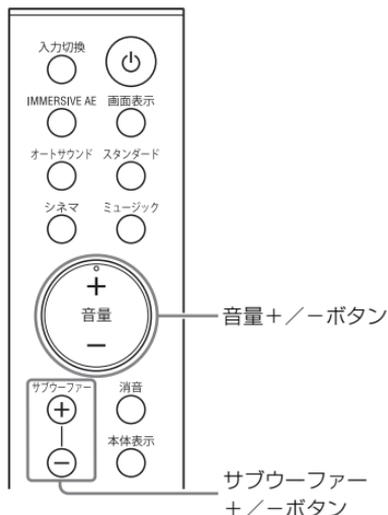
本機にBLUETOOTH接続した機器の音声を選びます。詳しくは「BLUETOOTH®機能で音楽／音声を聞く」(25ページ)をご覧ください。

2 音量を調節する (24ページ)。

ちょっと一言

バースピーカーの \odot ボタンを押して入力を選ぶこともできます。

音量を調節する



本機の音量を調節する

音量+/-ボタンを押します。
音量レベルは表示窓に表示されます。

サブwooferの音量を調節する

サブwoofer +/-ボタンを押します。
音量レベルは表示窓に表示されます。

サブwooferは低音を再生するためのスピーカーです。

ご注意

- テレビ放送などの低音の少ない入力では、サブwooferの音が聞こえにくいことがあります。
- サブwooferをつないでいないときは、サブwoofer +/-ボタンは効きません。

2か国語放送の音声を切り換える (音声切換)

2か国語放送は、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されているAAC音声方式で放送されています。BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル（別売）でつなぎます。お使いのテレビのHDMI端子がeARCまたはARC機能（37ページ）に対応している場合は、HDMIケーブル経由でAAC音声を聞くことができます。また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。



サブウーファー



消音



本体表示



メニュー



音声切換ボタン

- 1 音声切換ボタンを繰り返し押ししてお好みの音声を選ぶ。

表示窓	機能
[MAIN]	主音声を再生します。
[SUB]	副音声を再生します。
[M/S]	主音声と副音声をミックスして再生します。

ご注意

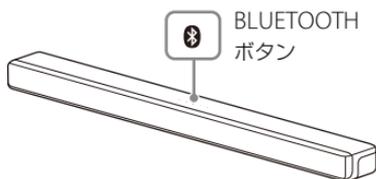
テレビや他機器をBLUETOOTH機能でつないでいる場合は、音声切換ボタンは効きません。

BLUETOOTH[®] 機能で音楽／音声を聞く

モバイル機器とBLUETOOTH機能でつないで本機で音楽を聞くことができます。

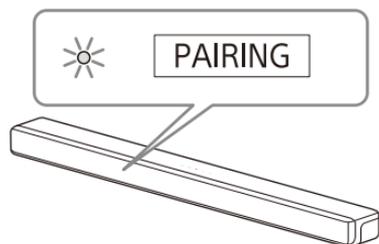
モバイル機器を機器登録（ペアリング）して音楽を聞く

BLUETOOTH機能を使うには、あらかじめ本機でモバイル機器を機器登録（ペアリング）する必要があります。



- 1 バースピーカーのBLUETOOTHボタンを2秒間長押しする。

本機がペアリングモードになり、表示窓に「PAIRING」と表示され、BLUETOOTHランプが2回ずつ点滅します。



次のページへつづく

2 モバイル機器で機器登録（ペアリング）操作をして、本機を検索する。

モバイル機器の画面に検出したBLUETOOTH機器の一覧が表示されます。

モバイル機器にBLUETOOTH機器を機器登録（ペアリング）する操作方法は、モバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

3 モバイル機器の画面に表示された機器の一覧から「HT-G700」を選び、互いの機器を登録する。

パスコードを要求された場合は、「0000」を入力します。

4 バースピーカーのBLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

5 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

6 音量を調節する（24ページ）。

BLUETOOTH機能の接続状態を確認する

接続の状態	BLUETOOTHランプの状態
ペアリング待ち状態	青色に2回ずつ点滅
接続待ち状態	青色にゆっくり点滅
接続完了	青色に点灯

ご注意

BLUETOOTH機器はそれぞれ次の台数までペアリングできます。

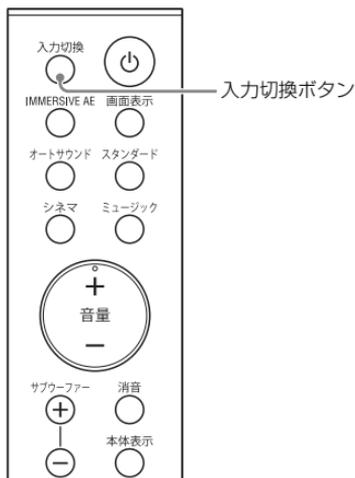
- － モバイル機器：9台
- － ソニー製のBLUETOOTH機能搭載テレビ：1台

上記の台数をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、最も古いペアリング情報が新たな機器の情報で上書きされます。

ちょっと一言

- まだ1台もペアリングをしていない場合（本機ご購入直後など）は、BLUETOOTH入りに切り換えるだけでペアリングモードになります。
- 2回目以降もモバイル機器ごとにペアリングを行ってください。

機器登録（ペアリング）済みのモバイル機器の音楽を聞く



1 モバイル機器の
BLUETOOTH機能をオン
にする。

2 入力切換ボタンを繰り返し
押して [BT] を選ぶ。

最後につないだBLUETOOTH機器
と自動的につながります。

3 バースピーカーの
BLUETOOTHランプが青
色に点灯していることを確
認する。

本機とモバイル機器との接続が完
了しました。

4 モバイル機器の音楽再生ア
プリアプリでコンテンツを再生す
る。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する（24ペー
ジ）。

モバイル機器の接続を解除する
次のいずれかを行ってください。

- モバイル機器のBLUETOOTH機能を
オフにする。
- [BT] - [POWER] を [OFF] に設
定する（38ページ）。
- 本機またはモバイル機器の電源を切
る。

ちょっと一言

接続が完了しなかった場合、モバイル機器
側で、「HT-G700」を選んでください。

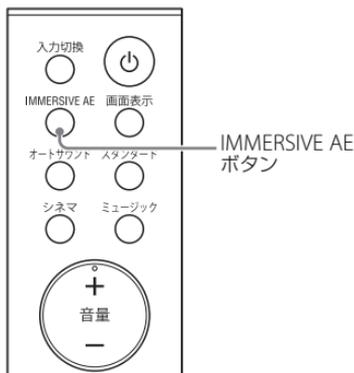
音質を調整する

上から包まれる臨場感を体験する (IMMERSIVE AE)

サウンドモード（29ページ）に対してVertical Surround Engine*が効果的に働き、横からだけでなく上からも包み込まれるような体験ができます。テレビ放送などに多い2.0チャンネル信号に対しても動作します。

* Vertical Surround Engineとは、ソニー独自の高精度なデジタル音場処理技術で、トップスピーカーを配置せずに、前方のスピーカーだけで平面方向の音場に加え、仮想的に高さ方向の音場を再現します。

天井にスピーカーを配置する必要がなく、天井の高さによらず豊かな臨場感を楽しめます。また、壁面からの反射音を利用しないため、部屋の形状の影響を受けにくく、良好なサラウンド再生を可能にします。



1 IMMERSIVE AEボタンを押してオン／オフに設定する。

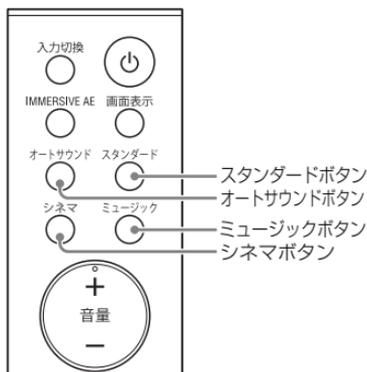
表示窓	機能
[IAE.ON]	Immersive Audio Enhancement機能を有効にします。
[IAE.OFF]	Immersive Audio Enhancement機能を無効にします。

ご注意

- 音源により、全方位からのサラウンド効果は異なります。
- 音源によっては、音声と映像がずれることがあります。お使いのテレビに映像を遅延させる機能がある場合は、そちらをご使用ください。
- Immersive Audio Enhancement機能は、[AUDIO] - [EFFECT] で [SOUND MODE ON] を選んでいるときのみ有効です（36ページ）。

音源に合わせたサウンド効果に設定する（サウンドモード）

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンド効果を選べます。



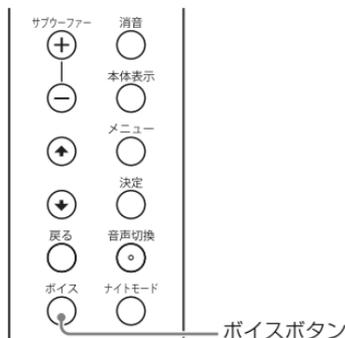
1 オートサウンド、スタンダード、シネマ、ミュージックのいずれかのボタンを押してサウンドモードを選ぶ。

ボタン	機能
オートサウンド	表示窓に [AUTO SOUND] が表示されます。スタンダード、シネマ、ミュージックの中から再生するコンテンツに合ったおすすめサウンドモードに自動的に切り換わります。
スタンダード	表示窓に [STANDARD] が表示されます。ジャンルを問わず、サラウンド感を体感する際に適しています。
シネマ	表示窓に [CINEMA] が表示されます。後方へ回り込む音や音場に包まれる没入感を体験することができます。映画を楽しむときに適しています。
ミュージック	表示窓に [MUSIC] が表示されます。楽器や声の生々しさやつやなどがきめ細かく表現され、音楽をより感動的に楽しむときに適しています。

ご注意

- サウンドモード機能は、[AUDIO] - [EFFECT] で [SOUND MODE ON] を選んでいるときのみ有効です（36ページ）。
- 音源によっては、音声と映像がずれることがあります。お使いのテレビに映像を遅延させる機能がある場合は、そちらをご使用ください。

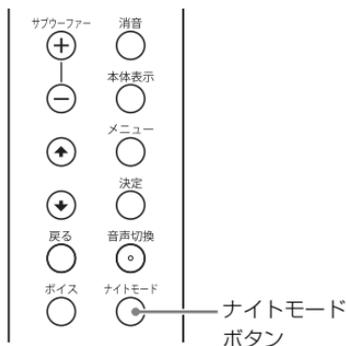
セリフを聞きやすくする（ボイス）



1 ボイスボタンを押してオン／オフに設定する。

表示窓	機能
[Vo.ON]	セリフを強調し、聞こえやすくします。
[Vo.OFF]	ボイスモード機能を無効にします。

深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ (ナイトモード)



- 1 ナイトモードボタンを押してオン/オフに設定する。

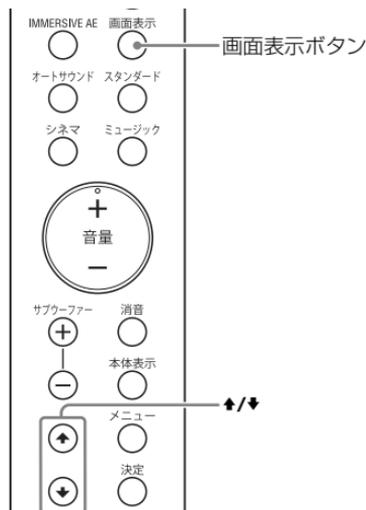
表示窓	機能
[N.ON]	小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。
[N.OFF]	ナイトモード機能を無効にします。

ご注意

本機の電源を切ると、ナイトモードは自動的に [N.OFF] に設定されます。

音質設定を確認する (画面表示)

サウンドモード、IMMERSIVE AE、ボイスモード、ナイトモードの現在の設定や、ストリーム情報を確認することができます。



- 1 画面表示ボタンを押す。
表示窓に現在のサウンドモードが表示されます。
- 2 \uparrow/\downarrow ボタンを繰り返し押しして確認したい音質設定を選ぶ。

表示窓に各音質設定の現在の状態が以下の順で表示されます。
サウンドモード (29ページ) → IMMERSIVE AE (28ページ) → ボイスモード (30ページ) → ナイトモード (31ページ) → ストリーム情報
 \uparrow/\downarrow ボタンを押すと、逆の順で表示されます。

HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能*対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブルでつなぐと、テレビのリモコンひとつで機器の操作が簡単にできます。

HDMI機器制御機能では下記の機能が使えます。

- 電源オフ連動
- システムオーディオコントロール
- eARC/ARC (Enhanced Audio Return Channel/Audio Return Channel)
- ワンタッチプレイ
- HDMI信号スタンバイスルーの省電力設定

ご注意

これらの機能は他社製の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

* HDMI機器制御は、CEC (Consumer Electronics Control) で使用されている、HDMI (High-Definition Multimedia Interface) のための相互制御機能の規格です。

HDMI機器制御機能の準備をする

[HDMI] - [CONTROL FOR HDMI] を [ON] に設定してください (37 ページ)。お買い上げ時の設定は [ON] です。

本機につないだテレビと機器のHDMI機器制御機能の設定を有効にしてください。

ちょっと一言

ソニー製のテレビをご使用の場合は、テレビのHDMI機器制御 (“ブラビアリンク”) 機能を有効にすると、本機のHDMI機器制御機能も自動的に有効になります。

電源オフ連動

テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

ご注意

機器の状態によっては、本機につないだ機器の電源が切れない場合があります。

システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は本機のスピーカーから出力されます。テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、音声は本機のスピーカーから出力されます。

テレビのメニューからも操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビによっては、本機の音量の数字がテレビ画面に表示されます。テレビ画面に表示された数字は表示窓の数字と異なる場合があります。
- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロールが使えない場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては、前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合、テレビの電源を入れても本機の電源が連動して入らないことがあります。

eARC / ARC (Enhanced Audio Return Channel / Audio Return Channel)

テレビのeARCまたはARC対応HDMI入力端子に本機をつないだ場合は、光デジタル音声ケーブルをつながずにテレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。

本機の [HDMI] - [eARC] を [ON] に設定してください (37ページ)。お買い上げ時の設定は [ON] です。

ご注意

- テレビのeARC機能またはARC機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- eARCまたはARCに対応していないテレビの場合は、光デジタル音声ケーブル (別売) の接続が必要です。(スタートガイド (別紙) 参照)

ワンタッチプレイ

本機につないだ機器 (ブルーレイディスクレコーダー、PlayStation®4 など) のコンテンツを再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、本機の入力HDMI入力に切り換わり、音声は本機のスピーカーから出力されます。

ご注意

- [HDMI] - [STANDBY THROUGH] が [ON] または [AUTO] に設定されていて、かつ、前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合、テレビによっては機器のコンテンツを再生しても本機の電源は入らずに、テレビから音声と映像が出力されることがあります (37ページ)。
- テレビによっては、再生途中のコンテンツの開始部分が正しく再生されない場合があります。

HDMI信号スタンバイスルーの省電力設定

HDMI信号スタンバイスルーとは、本機の電源を入れることなく、本機につないだ機器の音声や映像をテレビで楽しむことができる機能です。

[HDMI] - [STANDBY THROUGH] を [AUTO] に設定すると、本機の待機電力を削減することができます (37ページ)。お買い上げ時の設定は [AUTO] です。

ご注意

本機につないだ機器の映像がテレビに表示されない場合は、[HDMI] - [STANDBY

次のページへつづく

THROUGH] を [ON] に設定してください。他社製のテレビにつないだ場合はこの設定をおすすめします。

“ブラビアリンク” を使う

“ブラビアリンク” 対応の機器では、HDMI機器制御機能の他に音質モード／シーンセレクト連動機能も使うことができます。

ご注意

この機能はソニー独自の機能です。他社製の機器では使えません。

音質モード／シーンセレクト 連動

テレビの音質モード／シーンセレクトの設定に応じて、本機のサウンドモードを自動的に切り換えます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

サウンドモードをオートサウンドにしてください（29ページ）。

設定メニューを使う

設定メニューで下記の設定を変更できます。電源コードを抜いても、変更した設定は保持されます。

1 メニューボタンを押して設定メニューモードにする。

表示窓に [SPEAKER] が表示されます。

2 ↑/↓ボタンを繰り返し押し続けて項目を選び、決定ボタンを押す。

以下の項目が選べます。

- [SPEAKER] (スピーカー設定) (35ページ)
- [AUDIO] (音声設定) (36ページ)
- [HDMI] (HDMI設定) (37ページ)
- [BT] (BLUETOOTH設定) (38ページ)
- [SYSTEM] (本体設定) (38ページ)
- [RESET] (設定初期化) (38ページ)
- [UPDATE] (アップデート) (39ページ)

3 ↑/↓ボタンを繰り返し押し続けて設定を選び、決定ボタンを押す。

戻るボタンを押すと、一つ上の階層に戻ります。

4 メニューボタンを押して設定メニューモードを終了する。

設定メニュー一覧

項目	機能
[SPEAKER] (スピーカー設定)	[LINK] (リンクモード) <ul style="list-style-type: none">• [START] : 本機とサブウーファースの自動接続を行います。詳しくは「サブウーファースをつなぐ」(14ページ)をご覧ください。 自動接続を止めるには戻るボタンを押します。• [CANCEL] : 上の階層 [LINK] に戻ります。
[SUBWOOFER INFO] (サブウーファースバージョン情報)	サブウーファースのバージョン情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• [LATEST] : 最新のバージョンです。• [PLEASE UPDATE] : 最新のバージョンではありません。• [NOT CONNECTED] : サブウーファースが本機につながれていません。

項目	機能
[AUDIO] (音声設定)	<p>[DRC] (オーディオDRC)</p> <p>音声トラックのダイナミックレンジ（最大音量から最小音量の幅）を圧縮します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [AUTO]：Dolby TrueHDでエンコードされた音声を自動的に圧縮します。 • [ON]：ドルビーやDTS音声をレコーディングエンジニアが意図したダイナミックレンジで再生します。 • [OFF]：ダイナミックレンジを圧縮しません。
[SYNC] (AVシンク)	<p>音声と映像がずれているときは、音声を遅らせることでずれを調節することができます。</p> <p>0 msec～120 msecの間で40 msecきざみで調節できます。</p> <p>お買い上げ時の設定は [0ms] です。</p>
ちょっと一言	
この機能はHDMI入力のあるときのみ有効です。	
[DIALOG] (DTSダイアログコントロール)	<p>セリフの音量を調節することにより、セリフの音量を背景の音から際立たせ、騒がしい環境でもセリフを聞き取りやすくします。この機能はDTS:Xダイアログコントロールに対応したコンテンツを再生しているときに働きます。</p> <p>0 dB～6 dBの間で1 dBきざみで調節できます。</p> <p>お買い上げ時の設定は [0dB] です。</p>
[EFFECT] (サウンドエフェクト)	<p>サウンドモードなどのサウンド効果の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [SOUND MODE ON]：Vertical Surround Engineがサラウンドとハイトスピーカーチャンネル音声を強調することによって、サウンドモード（29ページ）やImmersive Audio Enhancement（28ページ）などの包み込まれるような臨場感のあるバーチャルサラウンドエフェクトを実現します。 • [DOLBY SPEAKER VIRTUALIZER]：ドルビー・スピーカー・バーチャライザーがサラウンドとハイトスピーカーチャンネル音声を強調することによって、包み込まれるような臨場感のあるバーチャルサラウンドエフェクトを実現します。DTSフォーマットを再生している場合は無効となります。 • [DTS VIRTUAL:X]：DTS Virtual:Xが有効になります。本機に搭載されているDTS Virtual:X技術によってマルチスピーカーの中心で視聴しているような体験ができます。ドルビーフォーマットを再生している場合は無効となります。 • [NO EFFECT]：サウンドエフェクトを無効にします。

項目	機能
[HDMI] (HDMI設定)	<p>[CONTROL FOR HDMI] (HDMI機器制御)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ON] : HDMI機器制御機能を有効にします。HDMIケーブルでつないだ機器を相互に操作することができます。 • [OFF] : この機能を使いません。
[STANDBY THROUGH] (スタンバイスルー)	<ul style="list-style-type: none"> • [AUTO] : 本機の電源が入っていないとき、テレビの電源が入っていれば、本機のHDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子から信号を出力します。つないだテレビの電源を切ると、[ON] よりも本機の待機電力を抑えることができます。 • [ON] : 本機の電源が入っていないとき、常に本機のHDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子から信号を出力します。他社製のテレビにつないだ場合、この設定をおすすめします。 • [OFF] : 本機の電源が入っていないとき、本機のHDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子から信号を出力しません。本機につないだ機器のコンテンツをテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。[ON] よりも本機の待機電力を抑えることができます。
[TV AUDIO] (テレビ音声)	<p>テレビ音声の再生に使う端子を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [AUTO] : テレビをHDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子とTV入力 (OPT) 端子両方につないでいると、HDMI出力 (TV eARC/ARC) 端子の音声を優先して再生します。 • [OPTICAL] : TV入力 (OPT) 端子の音声を再生します。
[EARC]	<p>本機をeARCに対応したテレビにつなぐと、Dolby Atmos - Dolby TrueHDやDTS:Xなどのオブジェクトオーディオや、マルチチャンネルLPCM信号をHDMIケーブルで伝送できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ON] : eARC機能を有効にします。eARC対応テレビにつないでいるときに設定してください。 • [OFF] : eARC対応テレビにつないでいないときに設定してください。
<p>ご注意</p> <p>[EARC] を [ON] に設定したときは、テレビのeARC設定を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。</p>	
[FORMAT] (HDMI信号フォーマット)	<p>入力しているHDMI信号のフォーマットを設定します。詳しくは「4K映像コンテンツを見るための設定をする」(21ページ) をご覧ください。</p>

項目	機能
[BT] (BLUETOOTH 設定)	<p>[POWER] (BLUETOOTH モード)</p> <p>BLUETOOTH機能をオン/オフすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ON] : BLUETOOTH機能をオンにします。 • [OFF] : BLUETOOTH機能をオフにします。 <p>ご注意 BLUETOOTH機能をオフにすると、入力切替ボタンを押して入力を選ぶときにBLUETOOTH入力はスキップされます。</p>
	<p>[STANDBY] (BLUETOOTHスタンバイ)</p> <p>BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすると、本機がスタンバイ状態のときにペアリング済みのBLUETOOTH機器の操作により本機の電源を入れて音声を聞くことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ON] : BLUETOOTHスタンバイモードが有効になります。 • [OFF] : BLUETOOTHスタンバイモードが無効になります。 <p>ご注意 BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすると、スタンバイ時の消費電力が大きくなります。</p>
	<p>[AAC CODEC] (AACコーデック)</p> <p>お使いの機器がAACをサポートしている場合にAACを有効にすると、高音質で楽しめます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ON] : AACコーデックが有効になります。 • [OFF] : AACコーデックが無効になります。
[SYSTEM] (本体設定)	<p>[IR REPEATER] (IRリピーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ON] : テレビのリモコン信号がバースピーカー背面から送信されます。 • [OFF] : この機能を使いません。 詳しくは「テレビのリモコンが効かないときは」(15ページ)をご覧ください。
	<p>[AUTO STANDBY] (自動電源オフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ON] : 自動電源オフ機能を有効にします。何も操作されないまま無入力状態で約20分が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。 • [OFF] : この機能を使いません。
	<p>[VERSION] (バージョン情報)</p> <p>表示窓に本機の現在のファームウェアバージョン情報を表示します。</p>
[RESET] (設定初期化)	<p>[ALL RESET] (全設定初期化)</p> <p>お買い上げ時の設定に戻します。詳しくは「初期化する」(50ページ)をご覧ください。</p>

項目	機能
[UPDATE] (アップデート)	[START] (開始) ソフトウェアアップデートファイルを保存したUSBメモリーを本機につないだあとに選んでアップデートを開始してください。 ソフトウェアアップデートがあるときは、下記のウェブサイトでお知らせします。 https://www.sony.jp/support/ ご注意 <ul style="list-style-type: none">• アップデートを開始する前に、サブウーファースの電源が入っていて本機とつながれていることを確認してください。• バースピーカーの  ボタンと BLUETOOTH ボタンを同時に7秒間押し続けてアップデートを行うこともできます。
[CANCEL] (キャンセル)	上の階層 [UPDATE] に戻ります。

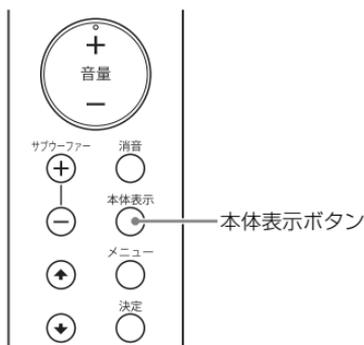
表示窓とランプの明るさを調整する (本体表示)

ご注意

[OFF] を選ぶと表示窓が消灯します。いずれかのボタンを押すと点灯し、約10秒間操作をしないとまた消灯になります。表示窓が消えない場合もありますが、その場合の明るさは [DARK] と同じです。

以下の明るさを変更できます。

- バースピーカーの表示窓
- バースピーカーのBLUETOOTHランプ
- サブウーファースの電源ランプ



- 1 本体表示ボタンを繰り返し押し、本体表示モードを選ぶ。

表示窓	機能
[BRIGHT]	表示窓とランプは明るく点灯します。
[DARK]	表示窓とランプは暗く点灯します。
[OFF]	表示窓は消灯します。

スタンバイ時の待機電力をおさえる

スタンバイ時の消費電力をおさえるには、以下の設定をします。

- [HDMI] - [STANDBY THROUGH] を [OFF] に設定する (37ページ)。(お買い上げ時の設定：[AUTO])
- [BT] - [STANDBY] を [OFF] に設定する (38ページ)。(お買い上げ時の設定：[ON])

困ったときは

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、次の順序で対処してください。

- 1 「困ったときは」で該当するトラブルと解決方法を調べて対処する。
- 2 本機を初期化する。
本機のすべての設定がお買い上げ時の状態に戻ります。初期化の手順については「初期化する」(50ページ)をご覧ください。

それでも正常に動作しない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

修理をご依頼の場合は、バースピーカー、サブウーファーいずれかに問題がある場合でも、両方ともお持ちください。

電源

電源が入らない

- 電源コードがしっかり差し込まれているか確認してください。
- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源コードを差し直してください。

本機の電源が勝手に切れてしまう

- 自動電源オフ機能が働いています。
[SYSTEM] - [AUTO STANDBY] を [OFF] に設定してください (38ページ)。

テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない

- [HDMI] - [CONTROL FOR HDMI] を [ON] に設定してください (37ページ)。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。本機の電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては、前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合は、テレビの電源を入れても本機の電源が入らない場合があります。

テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

- [HDMI] - [CONTROL FOR HDMI] の設定を確認してください (37ページ)。[ON] に設定している場合は、本機の入力がTVまたはHDMI入力のときにテレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

テレビの電源を切っても、本機の電源が切れない

- [HDMI] - [CONTROL FOR HDMI] の設定を確認してください (37ページ)。テレビの電源を切ったときに本機の電源も連動させたい場合は、[ON] に設定してください。入力がTVまたはHDMIのときのみ連動します。入力がBLUETOOTHのときは連動しません。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機の電源が切れない

- 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します。パースピーカーの⏻（電源）ボタンとー（音量）ボタンを5秒以上長押ししてください（50ページ）。

映像

映像が出ない、正しく出力されない

- 適切な入力を選んでください（23ページ）。
- テレビの映像が出ない場合は、テレビのリモコンで見たいチャンネルを選んでください。
- HDMI入力を選んでいるときに映像が出ない場合は、つないだ機器の再生ボタンを押してください。
- HDMIケーブルを抜いて、差し直してください。HDMIケーブルは、奥までしっかり差し込んでください。
- 本機につないだ機器の映像が出ない、または正しく表示されない場合は、[HDMI] - [FORMAT] を [STANDARD] に設定してください（37ページ）。[HDMI] - [FORMAT] を [ENHANCED] に設定した場合、古い機器の映像によっては正しく表示されないことがあります。
- HDMI接続時に映像が出ない場合は、機器をHDMI入力端子に、テレビをHDMI出力（TV eARC/ARC）端子につないだことを確認してください。
- HDCP（Highbandwidth Digital Content Protection）に対応している機器に本機をつないでいるか確認し

てください。つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

HDMI入力端子からの3Dコンテンツがテレビ画面に表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては3Dコンテンツが表示されない場合があります。対応しているHDMIの映像フォーマットを確認してください（54ページ）。

HDMI入力端子からの4K映像コンテンツがテレビ画面に表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては4K映像コンテンツが表示されない場合があります。テレビとビデオ機器の映像設定と機能を確認してください。
- [HDMI] - [FORMAT] を [ENHANCED] に設定したときに、映像が正しく表示されないことがあります。その場合は [STANDARD] に設定してください（37ページ）。
- 18Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）またはイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください（55ページ）。
- HDCP2.2またはHDCP2.3に対応していないHDMI端子に本機をつないでいる場合は、表示窓に [ERROR: TV DOES NOT SUPPORT HDCP2.2 OR 2.3] が表示されることがあります。4Kテレビや4K対応機器のHDCP2.2またはHDCP2.3に対応しているHDMI端子につないでください。

テレビ全体に表示されない

- ディスクに記録されている映像のアスペクト比が固定されていないか確認してください。

本機の電源が入っていないとき、テレビに映像と音声が出ない

- [HDMI] - [STANDBY THROUGH] を [AUTO] または [ON] に設定してください (37ページ)。
- 本機の電源を入れて、入力を再生している機器に切り換えてください。

HDRコンテンツがハイダイナミックレンジで表示されない

- テレビまたはつないだ機器の設定を確認してください。詳しくは、テレビまたはつないだ機器の取扱説明書をご覧ください。
- 機器によっては、帯域が十分でないときにHDRコンテンツをSDRに変換することがあります。テレビとつないだ機器が18Gbpsに対応している場合は、[HDMI] - [FORMAT] を [ENHANCED] に設定してください (37ページ)。また、18Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応) をお使いください (55ページ)。

音声

本機とテレビがBLUETOOTH機能でつながらない

- テレビと本機をHDMIケーブル (付属) でつないでいる場合は、BLUETOOTH接続が解除されます。HDMIケーブルを抜いてからペアリン

グの手順を最初からやりなおしてください (17ページ)。

本機からテレビの音声がでない

- テレビと本機をつないでいるHDMIケーブルまたは光デジタル音声ケーブルの種類や接続を確認してください (スタートガイド (別紙) を参照)。
- テレビと本機をつないでいるケーブル類を抜き、しっかり奥まで差し込みなおしてください。続けてテレビと本機の電源コードを抜き、差し込みなおしてください。
- テレビと本機をHDMIケーブルのみでつないでいる場合は、以下を確認してください。
 - 一本機がテレビのeARCまたはARC対応HDMI端子につながれている。
 - テレビのHDMI機器制御機能が有効になっている。
 - テレビのeARC機能またはARC機能が有効になっている。
 - [HDMI] - [EARC] が [ON] に設定されている (37ページ)。
 - [HDMI] - [CONTROL FOR HDMI] が [ON] に設定されている (37ページ)。
- テレビがeARCに対応していない場合は、[HDMI] - [EARC] を [OFF] に設定してください (37ページ)。
- お使いのテレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、光デジタル音声ケーブル (別売) をつないでください (スタートガイド (別紙) を参照)。テレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、本機をテレビのHDMI入力端子につないでもテレビの音声は本機から出力されません。

- 入力切換ボタンを繰り返し押し、TV入力を選んでください(23ページ)。
- 本機の音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビにつないだケーブルテレビ(CATV)ボックス/衛星放送チューナーの音声がでない場合は、その機器を本機のHDMI入力端子につないで、本機の入力をHDMIに切り換えてください(スタートガイド(別紙)を参照)。
- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になる場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。
- テレビ(ブラビア)のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機の電源が入っていないとき、つないだ機器の映像と音声がテレビに出ない

- [HDMI] - [STANDBY THROUGH] を [AUTO] または [ON] に設定してください(37ページ)。
- 本機の電源を入れて、入力を再生している機器に切り換えてください。

本機とテレビの両方から音が出る

- 本機またはテレビを消音してください。

本機とテレビの音量の数値を同じにしても、音の大きさが同じにならない

- HDMI機器制御機能を有効にしていると、本機の音量の数値がお使いのテレビの音量として表示されることがありますが、テレビと本機の音量の数値が同じであっても、テレビと本機では実際に出力される音の大きさは異なります。テレビと本機で音の大きさが異なるのは、テレビと本機で音声処理の特性の違いがあるためで故障ではありません。

テレビ番組や録画した番組を視聴中に音が途切れる

- サウンドモードの設定を確認してください(29ページ)。オートサウンドに設定されている場合、視聴中の番組情報に応じてサウンドモードが自動的に切り換わる際に、音が途切れることがあります。自動的に切り換ええない場合は、オートサウンド以外のサウンドモードに設定してください。

本機から出るテレビの音声が映像より遅れる

- [AUDIO] - [SYNC] が40 msec~120 msecに設定されていたら、[0ms] に設定してください(36ページ)。
- 音源によっては、音声と映像がずれることがあります。お使いのテレビに映像を遅延させる機能がある場合は、そちらをご使用ください。

本機につないだ機器の音声がでない、または音が小さい

- リモコンの音量+ボタンを押して、音量を上げてください(10ページ)。
- リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除してください(10ページ)。
- 正しい入力を選んでいるか確認してください。また、リモコンの入力切替ボタンを押して入力を切り換えてください(23ページ)。
- 本機と他機器をつないでいるケーブルの端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認してください。
- 著作権保護されたコンテンツを再生した場合は、本機から音が出ないことがあります。
- [HDMI] - [FORMAT] を [STANDARD] に設定してください(37ページ)。

サラウンド効果が得られない

- サウンドモードの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

サブウーファー

サブウーファーから音声がでない、または音が小さい

- サブウーファーの電源ランプが緑色またはアンバー色に点灯していることを確認してください。
- サブウーファーの電源ランプが消灯している場合は、以下を試してください。
 - ーサブウーファーの電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。
 - ーサブウーファーの⏻(電源) ボタンを押して電源を入れる。
- サブウーファーの電源ランプが緑色またはアンバー色でゆっくり点滅、または、赤色に点灯している場合は、以下を試してください。
 - ーサブウーファーの電源ランプが緑色またはアンバー色に点灯するようにサブウーファーの位置をバースピーカーの近くに動かす。
 - ー「サブウーファーをつなぐ」(14ページ)の手順を行う。
- サブウーファーの電源ランプが赤色に点滅している場合は、サブウーファーの⏻(電源) ボタンを押して電源を切り、サブウーファーの通風孔がふさがっていないか確認してください。
- サブウーファーは低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力(テレビ放送など)では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。内蔵のデモ音楽を再生してサブウーファーから音が出ることを確認してください。

- ① バースピーカーの⑤ ボタンを5秒間長押しする。
内蔵のデモ音楽が再生されます。
 - ② もう一度⑤ ボタンを押す。
内蔵のデモ音楽の再生が終了し、元の状態に戻ります。
- リモコンのサブウーファー+ボタンを押して、サブウーファーの音量を上げてください (10ページ)。
- ナイトモードをオフにしてください (31ページ)。

音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使ってください。
- バースピーカーとサブウーファーとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- バースピーカーの天面をテレビのフレームなどの金属物で覆わないでください。無線機能に影響が出る場合があります。
- バースピーカーとサブウーファーをできるだけ近づけてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- テレビ、ブルーレイディスクレコーダーなどの無線LANを有線LANに切り換えてください。

USB機器の接続

USB機器が認識されない

- 以下を試してください。

- ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器がUPDATE端子にしっかりつなげられているか確認してください。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。

USBメモリーに保存したファイルの音声は再生されない

- 本機のUSB端子は、ソフトウェアアップデート専用です (39ページ)。音声の再生には対応していません。

モバイル機器の接続

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

BLUETOOTH接続ができない

- バースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (25ページ)。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要があります場合があります。

次のページへつづく

→ ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください (25ページ)。

つないだBLUETOOTH機器の音が本機から出ない

→ パースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (25ページ)。

→ 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。

→ 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

→ 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。

→ 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。

→ 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。

→ BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。

リモコン

本機のリモコンが機能しない

→ パースピーカーのリモコン受光部に向けて操作してください (7ページ)。

→ リモコンと本機との間に障害物を置かないでください。

→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換えてください。

→ リモコンの正しいボタンを押しているか確認してください。

テレビのリモコンが機能しない

→ [SYSTEM] - [IR REPEATER] を [ON] に設定してください (38ページ)。

ソフトウェアアップデート

ソフトウェアアップデートができない。

→ ソフトウェアアップデートを行うには、アップデートファイルを保存したUSBメモリーを使用してください (39ページ)。

その他

HDMI機器制御機能が正しく働かない

→ 本機との接続を確認してください (スタートガイド (別紙) を参照)。

→ テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

→ しばらく待ってから操作してください。本機の電源コードを抜き差ししたときは、操作が可能になるまで時間がかかります。15秒以上待ってから操作してください。

→ 本機につないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。

→ 本機につないだ機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。

→ HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。

- 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
- 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで
- チューナー関連機器：4台まで
- オーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します）

表示窓に【PROTECT】が点滅し、本機の電源が切れる

→ 電源コードを抜き、本機の通風孔がふさがっていないか点検してください。

テレビの各種センサーが正常に動作しない

→ 本機の置きかたによっては、本機がテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの「3Dグラス用発信部（赤外線通信）」、無線通信をさえぎる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置まで本機をテレビから離してください。各種センサーやリモコン受光部の位置については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

無線機能（BLUETOOTH機能、サブウーファー）が不安定

→ 本機の周辺にテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。

急に知らない音楽が再生された

→ 店頭用内蔵音源が再生されている可能性があります。パースピーカーの
 — ④ ボタンを押すと再生が停止します。

本機が正常に動作しない

→ 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します。パースピーカーの④（電源）ボタンと—（音量）ボタンを5秒以上押ししてください（5ページ）。

初期化する

「困ったときは」で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

- 1** **メニューボタンを押す。**
表示窓に [SPEAKER] が表示されます。
- 2** **▲/▼ボタンを押して [RESET] を選び、決定ボタンを押す。**
- 3** **▲/▼ボタンを押して [ALL RESET] を選び、決定ボタンを押す。**
- 4** **▲/▼ボタンを押して [START] を選び、決定ボタンを押す。**
全ての設定が初期化されます。

初期化をキャンセルする

手順4で [CANCEL] を選びます。

設定メニューで本機を初期化できない場合

バースピーカーの  (電源) ボタンと  (音量) ボタンを同時に5秒以上押す。

設定が初期化されます。

ご注意

初期化によりサブウーファーとの接続が切断される場合があります。その場合は、「サブウーファーをつなぐ」(14ページ)を行ってください。

その他

主な仕様

ベーススピーカー (SA-G700)

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）
フロントL/フロントR/センタース
ピーカーブロック：100 W×3（各
チャンネル4 Ω、1 kHz）

入力

HDMI入力
デジタル入力（TV入力（OPT））

出力

HDMI出力（TV eARC/ARC）

* JEITA（電子情報技術産業協会）規定に
よる測定値です。

HDMI部

端子

19ピン標準コネクタ（Type A）

USB部

UPDATE端子：

Aタイプ（ソフトウェアアップデート
専用）

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格 Ver.5.0

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離約30 m¹⁾

登録台数

10台まで

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯（2.4 GHz～2.4835 GHz）

変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP（Advanced Audio
Distribution Profile）
AVRCP（Audio Video Remote
Control Profile）

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC⁵⁾

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）

20 Hz～20,000 Hz（32 kHz、
44.1 kHz、48 kHzサンプリング時）

- 1) 通信距離は目安です。周囲環境により通
信距離が変わる場合があります。
- 2) BLUETOOTHプロファイルとは、
BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標
準化したものです。
- 3) 音声圧縮変換方式のことです。
- 4) Subband Codec の略です。
- 5) Advanced Audio Codingの略です。

フロントL/フロントR/センタース ピーカーブロック部

形式

3スピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

45 mm×100 mm コーン型

一般

電源

AC 100 V、50 Hz/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：45 W
スタンバイ状態：0.5 W以下（パワ
ーセーブモード）

（[HDMI] - [CONTROL FOR HDMI] と
[BT] - [STANDBY] が [OFF] のとき）
スタンバイ状態：2 W以下*

（[HDMI] - [CONTROL FOR HDMI] と
[BT] - [STANDBY] が [ON] のとき）

* 本機はHDMIケーブル接続がなく、
BLUETOOTHペアリング履歴がない
場合に自動的にパワーセーブモード
になります。

最大外形寸法* (約) (幅/高さ/奥行き)

980 mm × 64 mm × 108 mm

* 突起部除く

質量 (約)

3.5 kg

サブウーファー (SA-WG700)

実用最大出力 (非同時駆動、JEITA*)

100 W、4 Ω、100 Hz

* JEITA (電子情報技術産業協会) による
測定値です。

形式

サブウーファーシステム

バスレフ型

使用スピーカー

160 mm コーン型

電源

AC 100 V、50 Hz/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：20 W

スタンバイ状態のとき：0.5 W以下

最大外形寸法* (約) (幅/高さ/奥行き)

192 mm × 387 mm × 406 mm

* 突起部除く

質量 (約)

7.5 kg

ワイヤレストランスミッター / レシーバー部

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯 (2.404 GHz - 2.476 GHz)

変調方式

GFSK

仕様および外観は、改良のため、予告なく
変更することがありますが、ご了承ください。
い。

入力できる音声フォーマット

以下の音声フォーマットに対応しています。

フォーマット	入力			
	HDMI	TV (eARC)	TV (ARC)	TV (OPT)
LPCM 2ch	○	○	○	○
LPCM 5.1ch	○	○	—	—
LPCM 7.1ch	○	○	—	—
Dolby Digital	○	○	○	○
Dolby TrueHD	○	○	—	—
Dolby Digital Plus	○	○	○	—
Dolby Atmos	○	○	—	—
Dolby Atmos - Dolby TrueHD	○	○	—	—
Dolby Atmos - Dolby Digital Plus	○	○	○	—
DTS	○	○	○	○
DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1	○	○	○	○
DTS 96/24	○	○	○	○
DTS-HD High Resolution Audio	○	○	—	—
DTS-HD Master Audio	○	○	—	—
DTS-HD LBR	○	○	—	—
DTS:X	○	○	—	—
MPEG-2 AAC	○	○	○	○
MPEG-4 AAC	○	○	○	○

○：対応

—：非対応

ご注意

HDMI入力端子は、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのコピープロテクションが含まれる音声フォーマットには対応していません。

入力できる映像フォーマット

以下の映像フォーマットに対応しています。

解像度	フレームレート	3D	カラースペース	色深度	[HDMI] - [FORMAT] 設定
4K 4096 × 2160p 3840 × 2160p	50/59.94/60 Hz	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit	[ENHANCED] ¹⁾
		—	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit	
	—	YCbCr 4:2:0	10/12 bit		
	23.98/24/25/ 29.97/30 Hz	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 bit	
4K 4096 × 2160p 3840 × 2160p	50/59.94/60 Hz	—	YCbCr 4:2:0	8 bit	[STANDARD] ²⁾
	23.98/24/25/ 29.97/30 Hz	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit	
		—	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit	
1920 × 1080p	25/29.97/30/50/ 59.94/60 Hz	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit	
	23.98/24 Hz	◎			
1920 × 1080i	50/59.94/60 Hz	○			
1280 × 720p	50/59.94/60 Hz	◎			
	23.98/24/29.97/ 30 Hz	—			
720 × 480p	59.94/60 Hz	—			
720 × 576p	50 Hz	—			
640 × 480p	59.94/60 Hz	—			

○：左右分割方式（サイドバイサイド）の3D信号に対応しています。

◎：フレームパッキング、上下分割方式（トップアンドボトム）の3D信号に対応しています。

¹⁾ 18Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をご利用ください。

²⁾ プレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）またはケーブルタイプロゴの明記されたソニー製のハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をご利用ください。

HDMI端子とHDMI機器の接続について

- 認証を受けたHDMIケーブルをおすすめします。
 - HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
 - HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
 - つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
 - 本機の入力TVのときは、HDMI出力（TV eARC/ARC）端子からはHDMI入力の映像が出力されます。
 - 本機はトリプルミナスに対応しています。
 - HDMI入力端子とHDMI出力（TV eARC/ARC）端子は、18Gbpsまでの帯域、HDCP2.2およびHDCP2.3¹⁾、BT.2020広色域²⁾、そして、HDR（High Dynamic Range）³⁾ コンテンツ伝送に対応します。
 - 解像度の異なるテレビとつなぐと、映像出力の再設定のために本機が再起動する場合があります。
- ¹⁾ HDCP2.2およびHDCP2.3は4K画像などのコンテンツ用に新しく強化された著作権保護技術です。
- ²⁾ BT.2020色域は、4Kテレビで定義された、新しい広色域規格です。
- ³⁾ HDRは、より広い範囲の（明部と暗部の）輝度を表現できる鮮やかなビデオ規格です。本機はHDR10方式、HLG（Hybrid Log Gamma）方式、Dolby Vision方式に対応しています。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：

- －BLUETOOTH標準規格Ver. 5.0

対応BLUETOOTHプロファイル：

- －A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
- －AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約30 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- －BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- －無線LANが構築されている場所
- －電子レンジを使用中の周辺
- －その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g/n) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度

の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 一本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 一 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 一 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準

規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある証明ラベルをはがすこと

ソフトウェア使用 許諾契約書

本契約は、ソニーホームエンタテインメント&サウンドプロダクツ株式会社（以下「ソニー」とします）とお客様との間でのソニーソフトウェア（コンピューターソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件（GNU General Public license (GPL)、Lesser/Library General Public License (LGPL)を含みますが、これらに限られるものではありません）を伴うソフトウェア（以下「対象外ソフトウェア」とします）が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていただくものとします。

第1条（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作権者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知

的財産権に関する法令によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条（使用権）

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス（以下「指定デバイス」とします）上で、私的利用の目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第3条（権利の制限）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
2. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
3. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
4. お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の

権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。

- お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
- 許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約に基づき許諾された使用权以外の権利を有しないものとします。

第5条（責任の範囲）

- ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用がお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の

不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修補又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニー関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。

- 許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス（当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限られず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます）は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断なく正常に作動すること及び将来に亘って正常に稼動することを保証いたしません。
- お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重過

失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実が生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第6条（用途の限定）

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途（例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器）を想定しては設計されていません。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第7条（第三者に対する責任）

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものと、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第8条（著作権保護及び自動アップデート）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作権者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産

権に関する法令に従うものとし、また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。

2. お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。

(ア) 許諾ソフトウェアのセキュリティー機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、

(イ) 当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること

(ウ) アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第9条（ネットワークサービス）

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービスのご利用条件に従っていただく必要

があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティ及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第10条（契約の解約）

1. ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。
2. 前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第4条、第5条乃至第13条の規定は有効に存続するものとします。

第11条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れるものとします。

第12条（契約の改訂）

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することがあります。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改訂の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第13条（その他）

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。
5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

**内部に水や異物を入れない
本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない**

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または本機を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- 設置時、本機と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源コードを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- ➔ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、本機が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も十分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは足にひっかけると本機の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。十分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の家財に損害**を与えたりすることがあります。

設置上のご注意

本機の角でけがをしないようにお気を付けてください。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



医療機器に近づけない

本製品（付属品を含む）は磁石を使用しているため、ペースメーカー、水頭症治療用圧可変式シャントなどの医療機器に影響を与える恐れがあります。本製品をこれらの医療機器をご使用の方に近づけないでください。これらの医療機器を使用されている場合、本製品のご使用前に担当医師にご相談ください。



病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



バースピーカーについて

機銘板は底面に貼ってあります。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることもあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

⚠ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



禁止

→ 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れてない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を避けるため、
下記の注意事項を必ずお守りください。

警告

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、
ショートして電池が発熱や破
裂をしたり、液が漏れたりし
て、けがやけどの原因とな
ることがあります。



指示

→ 機器の表示に合わせて、正しく入
れてください。

使い切ったときや、長期間使用 しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、
過放電により液が漏れ、
けがやけどの原因となるこ
とがあります。



指示

使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
 - 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くこと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
 - チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
 - 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機側面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。
- 使用中に本機の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 本機のスピーカーは、防磁型ではありません。本機の上や近くに磁気を利用したカード類は置かないでください。
- 本機の周りにテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。

付属の電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

お手入れについて

キャビネットは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

本機の使用上の注意事項

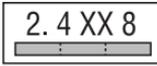
本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。



2.4FH8

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と
してFH-SS変調方
式を採用し、与干渉距離は80 mです。



2.4XX8

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と
してその他の方式を採用し、与干渉距
離は80 mです。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

アップデートに関する注意

本機をより便利かつ安定してお使いいただくために、ソフトウェアのアップデートが必要になることがあります。

ソフトウェアアップデートについて詳しくは「[UPDATE]」(39ページ)をご覧ください。

ソフトウェアアップデート中は、本機をご使用いただけない場合があります。

ソフトウェアアップデート中は、電源コードを抜かないでください。

商標とライセンスについて

本機はドルビーデジタル*、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、MPEG-4 AAC (LC) デコーダー、およびDTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Vision、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTSの特許については下記をご覧ください。

<http://patents.dts.com>

DTS社からの実施権に基づき製造されています。DTS、シンボル、DTSおよびシンボルの組み合わせ、DTS:X、DTS Virtual:X、およびDTS:Xロゴ、DTS Virtual:Xロゴは米国および他の国々で登録されたDTS社の登録商標または商標です。

© DTS, Inc. All Rights Reserved.

BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

“ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation”は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標または商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

Windows Mediaは米国および／またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

“TRILUMINOS” および“TRILUMINOS” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェック

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

ボタン

- 音声切替 24
- 画面表示 31
- ナイトモード 31
- ボイス 30
- 本体表示 40
- IMMERSIVE AE 28

数字

- 2か国語放送 24

あ行

- 明るさ
 - 表示窓 40
 - ランプ 40
- 映像フォーマット 6, 54
- オーディオDRC 36
- 音質モード/シーンセレクト 34
- 音声設定 36
- 音声フォーマット 6, 53

か行

- 現在の設定 31

さ行

- サウンドモード 29
- システムオーディオコントロール 32
- 自動電源オフ 38
- 初期化 50
- スタンバイスルー 33
- スピーカー設定 35

接続（「索引」の「有線接続」または「無線接続」をご覧ください。）

設置 12

設定

- 明るさ 40
- 音声 36
- 現在の状態 31
- サラウンド 28
- 初期化 50
- スピーカー 35
- 本体 38
- メニュー 35
- BLUETOOTH 38
- HDMI 37

セリフを強調 30

ソフトウェア

- アップデート 39
- バージョン 35, 39

た行

電源オフ連動 32

な行

ナイトモード 31

は行

フォーマット

- 映像 6, 54
- 音声 6, 53
- “ブラビアリンク” 34
- ボイスモード 30
- 本体設定 38

ま行

無線接続

- サブウーファー 14
- テレビ 17
- BLUETOOTH 機器 25

や行

有線接続

- 4K テレビと 4K 対応機器 20
- テレビ 17
- AV 機器 17

ら行

- リモコン 10

わ行

- ワンタッチプレイ 33

アルファベット

- A/Vシンク 36
- ARC 8, 33
- Audio Return Channel 8, 33
- BLUETOOTH 25
 - スタンバイ 38
 - 設定 38
 - ペアリング 25
 - AAC 38
- BT.2020 55
- DTSダイアログコントロール 36
- eARC 8, 33, 37
- Enhanced Audio Return Channel 8, 33, 37
- HDCP 55
- HDMI
 - 信号フォーマット 21
 - 設定 37
- HDMI機器制御 32
- HDR 55
- Immersive Audio Enhancement 28
- IR REPEATER 15
- PROTECT 49
- Vertical Surround Engine 28

 **DOLBY ATMOS**®



HDMI



型名：HT-G700

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル …………… 0120-333-020	フリーダイヤル …………… 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 …………… 050-3754-9577	携帯電話・PHS・一部のIP電話 …………… 050-3754-9599
	※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつながります。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



* 5 0 1 3 0 5 8 0 1 * (1)